

地域と農政を結ぶ

Vol.
26
令和5年9月



駿河湾沿いのミネラル豊富な農園で育てたサツマイモを使った、自然な甘さの干し芋です。
協力：株式会社ヤマウメ（牧之原市、6次産業化認定事業者）

CONTENTS

トピックス…1

「深蒸し菊川茶」GI登録
令和4年度「飼料用米多収日本一コンテスト」
J-クレジット
秋の農作業安全確認運動

生産現場での取組事例紹介…3

みどりの食料システム戦略の取組事例
スマート農業の取組事例

特集…5

食料・農業・農村政策の新たな展開方向
について

令和6年度農林水産予算概算要求の概要…6

統計の部屋…9

令和5年産一番茶の摘採面積など（静岡県）

コラム…10

お茶をめぐる課題と魅力

関東農政局 静岡県拠点 地方参事官室

農林水産省

「深蒸し菊川茶」がGIに認定されました！

令和5年3月、「深蒸し菊川茶（菊川深蒸し茶）」が地理的表示(GI)に登録されました。静岡県内では、お茶の登録は初となります。

菊川市とその周辺のお茶は、渋みが強いお茶とされてきましたが、昭和27年頃からの研究の結果、茶葉を長時間蒸すことで、味の良いお茶の製造に成功。「深蒸し茶発祥の地」として認知されています。全国に先駆けて、茶農協の設立による組織的な技術向上と良質茶の量産化を実現し、全国茶品評会での「深蒸し煎茶」部門の新設や全国への普及・拡大に大きく貢献しました。



令和5年3月31日 農林水産省で開催された地理的表示（GI）登録証授与式

特徴としては、淹れると濃厚な黄緑色で、まろやかな味わいを持っています。需要者からは、これらの特性に加え、深みのある豊潤な香りやうま味とコクが高く評価されています。



▶ 地理的表示（GI）保護制度とは？

特定の産地と品質等の面で結び付きのある農林水産物・食品等の製品の名称（地理的表示）を知的財産として保護し、生産業者の利益の増進と需要者の信頼の保護を図ることを目的としています。

静岡県内では、「深蒸し菊川茶」の他に、「三島馬鈴薯」、「田子の浦しらす」、「西浦みかん寿太郎」が登録されています。



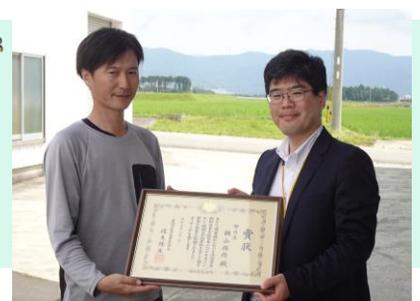
▶【農林水産省HP】
詳細はこちら



令和4年度「飼料用米多収日本一コンテスト」関東農政局長賞

令和4年度「飼料用米多収日本一コンテスト」において、御殿場市の横山保作さんが関東農政局長賞を受賞されました。

横山さんは、飼料用米として「どんとこい」を約2.3ha作付けしています。基本的技術を励行し、工夫を重ねて栽培を行っています。



（左から）
後継者の横山泉氏と秋山地方参事官

J-クレジット制度を活用して、 稲作の「中干し期間延長」に取り組んでみませんか

水田では、水を張った状態で活発に働くメタン生成菌が、土壌中の有機物を原料に、温室効果ガスであるメタンを発生させます。中干し期間を従来より1週間延長すれば、メタン生成菌の働きが抑えられ、メタン発生量を3割低減することができます。令和5年産より、中干し期間を直近2か年の実施日数より7日間以上延長し、所定の審査を受けることで、クレジット化することが可能になりました。

どうやって取り組んだらいいの？

重要ポイント

まずは3つの記録を用意！

(1) 事前準備

- ① 中干しの実施日数
(直近2か年分)
- ② 稲わらの持ち出し量
(直近の稲作分)
- ③ 堆肥の施用量
(直近の稲作以降)

(2) 取組実施

2か年の平均実施日数より7日間長く中干しを実施。取り組んだ圃場については、以下の情報の記録が必要。

- ① 中干しの実施日数
(開始・終了日)
- ② 出穂日
- ③ 稲わらの持ち出し量・堆肥の施用量など

(3) クレジット取得

農業者



企業等

クレジット購入者



クレジット

▶ J-クレジット制度とは？

温室効果ガスの排出削減量を国が「クレジット」として認証する制度。農業者の皆さんは企業等にクレジットを販売し、収入を得ることができます。

▼【農林水産省HP】
詳細はこちら



令和5年度秋の農作業安全確認運動

農林水産省では、農繁期の春（3～5月）と秋（9～10月）を重点期間として、農作業事故の防止に向けた運動を実施しています。

<令和5年秋のテーマ>

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

<主な取り組み内容>

▶ 農業者への声かけ運動

農業指導、講習会などの直接的周知に加え、SNS、ラジオ放送、有線放送などの媒体を活用した声かけを実施します。

▶ 研修を通じた転落・転倒対策の徹底

「農作業安全に関する指導者」等による農業機械の転落・転倒対策に係るテキストを使用した研修の企画・開催を推進します。



令和5年全国農作業安全確認運動
農林水産省

生分解性マルチの利用

環境負荷軽減に向けた枝豆生産推進協議会（JAおおいがわ枝豆研究会、焼津市、静岡県志太榛原農林事務所）

■取組の特徴

3 haの試験圃場において、1 haずつ異なる3種類の生分解性マルチを使い、作物生育への影響や耐久性などを比較・検証しています。機械でのマルチ展張や移植時の破けやすさ、栽培期間中の分解のしやすさ、雑草の抑制効果など種類によって差があることが判明しました。

■取組のメリット

生分解性マルチを導入することで、マルチ回収作業の省力化や環境負荷の低減効果が見込まれるとともに、同じ農地で葉物類の栽培を行う際に、速やかな切り替えが可能となることを期待しています。



■今後の取り組みについて

検証結果の分析を行い、産地に合ったマルチを選定するとともに、栽培マニュアルを作成し、生分解性マルチを使用した栽培の普及につなげていきます。

■その他

協議会では、ドローンを活用した農薬散布による省力化も目指します。



産業廃棄物をリン酸肥料として再利用

ディーエフ・メタル
株式会社TF-METAL（本社：湖西市）
自動車部品の設計・製造・販売を行う企業

■取組のきっかけ

自動車のシートを前後に移動させるスライドレールを生産している（株）TF-METAL竜洋事業所（磐田市）では、スライドレールの塗装前の処理工程で排出される廃水（使用済みリン酸水溶液）を、沈殿処理・固形化し産業廃棄物として有料で処分していました。この固形物にはリン酸が多く含まれているため肥料として再利用することとしました。

■肥料の生成方法

スライドレールを防錆処理工程でリン酸水溶液に浸けた後、薬剤を加えることで水と沈殿物に分離し、分離した沈殿物を、脱水・乾燥後、粉砕し袋詰めにします。

主成分試験・有害含有成分試験などに合格し、副産肥料として、2022年9月に肥料登録されました。（登録商標：工場（こうば）の恵み）



■これからの展開

現在、社会貢献の取組として磐田市及び湖西市内の小中学校の花壇等で活用されています。また、静岡県立農林環境専門職大学と連携し、野菜などで普通肥料との比較研究を行い、有効に使用するための方法を検討しています。



スマート農機の実証 (自動抑草ロボット・水位センサー等)

御殿場市みどりの農業推進協議会
(水稻生産者、御殿場市、静岡県東部農
林事務所、JAふじ伊豆(御殿場地区))

取組の背景

地域農業の発展と持続可能な農業振興を目指す「御殿場市みどりの農業推進協議会」が、2021年に策定された「みどりの食料システム戦略」が示す持続的な農業生産への転換を図るため、スマート農機の導入による化学農薬の低減や水田管理の省力化について実証試験に取り組むこととしました。

実証の内容

「ごてんばこしひかり」を生産する水田において、田植え直後から「自動抑草ロボット」を始動させました。また、水位を精密に管理して自動で給水する「水位センサー」や「給水ゲート」もあわせて設置しました。これらの導入により、除草用化学農薬の使用量低減や除草作業の省力化、水管理の人的労力の大幅な省力化などが期待できます。

今後の意向

自動抑草ロボットの費用対効果の検証と、稲の生育状況や収量等について慣行水田との比較を行い、安定した栽培管理の確立を目指していきます。

※自動抑草ロボット→スクリーンで泥を巻き上げ、水を濁らせることで光を遮り、雑草の発生を抑えるスマート農機。



いちご自動選果機導入

J A 遠 州 夢 咲
いちごパッケージセンター

導入の背景

JA遠州夢咲では、生産者の労力軽減と付加価値販売を目的に、2009年「いちごパッケージセンター」を開設しましたが、利用者数増加に伴い受け入れ体制と処理能力が課題となっていました。その課題解決のため、2019年に等級や規格に応じて自動選別ができる「いちご自動選果機」を静岡県内で初めて導入しました。

導入のメリット

自動選果機のバケットにいちごを載せると、3面カメラの画像処理により推定重量が自動計測され、等級と規格が選別されます。初心者でも比較的簡単にパック詰め作業が可能となったため、1人当たりの作業効率が向上し、受け入れ数量も大幅に増加しました。

今後の課題

稼働日数の増加の要望がありますが、冷蔵庫のスペース等の事情から難しい状況です。また、通年の雇用を見据えた作業人員の確保も課題となっています。



▲自動選果機のバケットにのせたいちご

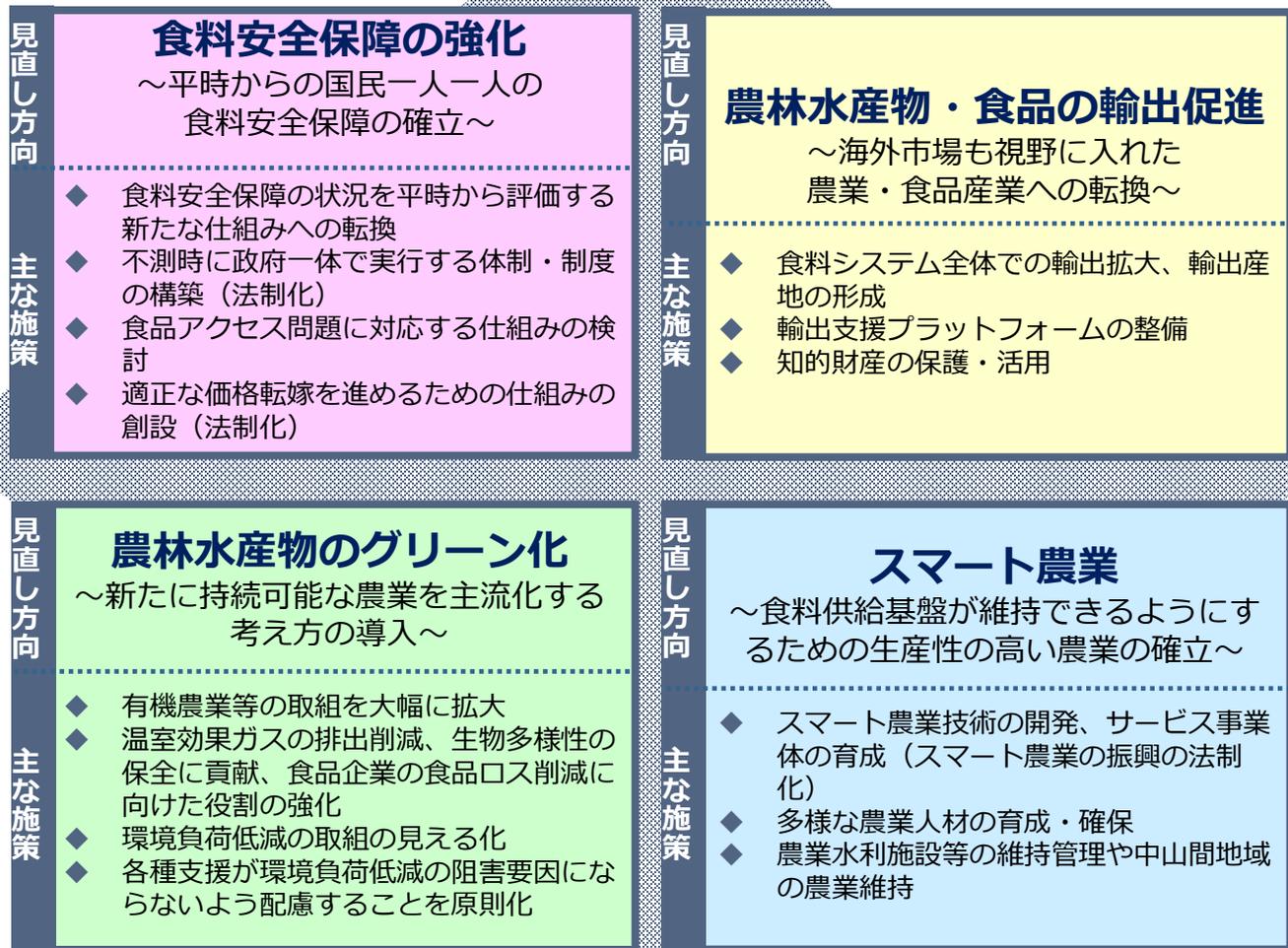


「食料・農業・農村政策の新たな展開方向について」 ～基本法の見直し方向と主な施策～

制定から20年が経過する中で、食料・農業・農村基本法の総合的な検証を実施し、国際的な食料生産の不安定化、我が国の農業従事者の減少、農業をめぐる国際的な議論の変化を踏まえ、平時からのすべての国民の食料安全保障を確保するため、基本法の見直しを行います。

見直しの方向性について、食料安定供給・農林水産業基盤強化本部が「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」を取りまとめています。

食料・農業・農村政策の4本柱と今後の方向性



令和6年の通常国会への提出に向けて、食料・農業・農村基本法改正案の法制化に向けた作業を加速化するとともに、基本法の改正方向に合わせ、関係省庁と連携し、法制度の見直しを含めた施策の具体化を進め、今後の施策の実施に向けた工程表を策定することとしています。

▶【農林水産省HP】
詳細はこちら



令和6年度農林水産予算概算要求の概要

「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」を踏まえ、食料安全保障の強化、環境対応、人口減少への対応の3本柱を中心に、新しい資本主義の下、若者や意欲ある農林水産業者が夢を持って農林水産業に取り組めるような環境整備、元気で豊かな農山漁村の次世代への継承等を実現するための農林水産予算を要求しています。

I 令和6年度農林水産予算概算要求の骨子

総括表

区分	5年度 予算額	6年度 要求・要望額	対前年度比
	億円	億円	
農林水産予算総額	22,683	27,209	120.0%
1 公共事業費	6,983	8,317	119.1%
一般公共事業費	6,782	8,116	119.7%
災害復旧等事業費	201	201	100.0%
2 非公共事業費	15,700	18,892	120.3%

- (注) 1. 金額は、関係ベース。
 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
 4. 農業農村整備事業関係予算の要求・要望額は、5,338億円。
 ・農業農村整備事業3,980億円
 ・農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分703億
 ・非公共の農業農村整備関連事業（農地耕作条件改善事業、畑作等促進整備事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業及び農山漁村振興交付金）655億円

II 令和6年度農林水産関係予算概算要求の主な内容

※「令和6年度農林水産関係予算概算要求の重点事項」から抜粋
 ※各事項の（）内は、令和5年度当初予算額

食料の安定供給の確保

水田活用の直接支払交付金等 3,050億円(3,050億円)

水田での麦・大豆等の戦略作物の本作化、畑地化による高収益作物等の導入・定着や地域の特色をいかした魅力的な産地づくり、新市場開拓に向けた米の低コスト生産の取組を支援

持続的生産強化対策事業 177億円(160億円)

加工・業務用野菜の国産シェア奪還、果樹の生産増大への転換、花き、茶・薬用作物等の持続的な生産基盤の強化

強い農業づくり総合支援交付金 176億円(121億円)

先駆的モデルの構築、産地の収益力強化・物流の効率化に向けた基幹施設や、食料安全保障の強化、みどりの食料システム戦略、スマート農業等の推進に必要な施設の整備等を支援

鳥インフルエンザに対応した養鶏場の分割管理のモデル実証事業等 3億円(-億円)

農場の分割管理の導入や飼養衛生管理の向上に必要となる施設・機器の整備等を支援



令和6年度農林水産予算概算要求の概要

国内資源の肥料利用拡大

36億円(-)

堆肥、下水汚泥資源などの国内肥料資源の利用拡大に向けた堆肥等の高品質化・ペレット化等による広域流通の促進、肥料価格急騰対策に関する調査の実施

輸出産地・事業者の育成・展開

12億円(9億円)

国内生産基盤の強化に向けた輸出産地形成・供給体制の強化

物流2024年問題への対応

持続可能な食品流通総合対策事業

31億円(-) 等

物流の標準化（パレット、外装等）・デジタル化・省力化、モーダルシフトを推進するための設備・機器の導入や中継共同物流拠点の整備への支援

適正な価格形成

2億円(1億円)

適正取引の推進に向け、コスト指標の作成・検証や価格転嫁に関する実態調査、消費者理解醸成のための広報の実施

食品産業における国産原材料の活用を促進する産地との連携強化

20億円(1億円)

国産原材料の活用を促進する産地との連携強化、新商品開発の取組等を支援

買い物弱者、経済的弱者への対策

食品アクセス確保対策推進事業

14億円(2億円) 等

地域の関係者が連携して食品アクセス確保に取り組む体制の構築、フードバンクや子ども食堂等の食品アクセス支援団体の活動、ラストワンマイル配送に向けた物流体制の構築への支援

農業の持続的な発展

地域計画策定推進緊急対策事業

14億円(8億円)

地域の目指すべき集約化に重点を置いた農地利用の姿や農地利用者を明確化した地域計画の策定を推進

新規就農者の育成

221億円(192億円)

就農に向けた研修資金、経営開始資金、雇用就農促進のための資金の交付や、農業教育機関における有機農業等の教育の充実等の取組を支援

畑作物の直接支払交付金

2,111億円(1,984億円)

収入減少影響緩和対策交付金

515億円(528億円)

収入保険制度の実施

399億円(306億円)

農業農村整備事業<公共>

3,980億円(3,323億円)

農地の大区画化や畑地化・汎用化の推進、スマート農業等に対応するデジタル基盤の整備等を推進

家畜衛生等総合対策

92億円(89億円)

家畜の伝染性疾病の発生予防・侵入防止とまん延防止、産業動物獣医師の確保や情報通信機器を活用した遠隔診療による獣医療の提供の推進

スマート農業技術の開発、スタートアップへの総合的支援

100億円(40億円)

スマート農業技術の開発・実用化や実需に対応した川上から川下までが参画して行う研究開発等を推進



令和6年度農林水産予算概算要求の概要

農村の振興（農村の活性化）

農山漁村振興交付金

117億円(91億円)

コロナ禍からの再始動を図る農泊地域への支援、6次産業化・農福連携等の農山漁村発イノベーションの推進、棚田地域振興のための活動等を支援

鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

122億円(97億円)

狩猟組織の体制強化やシカの集中的な捕獲など鳥獣被害防止対策の推進とジビエの利活用の拡大



みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化

みどりの食料システム戦略推進総合対策

30億円の内数(7億円の内数)

土壌診断による化学肥料低減等グリーンな栽培体系への転換、有機農産物の生産・需要拡大

環境保全型農業直接支払交付金

28億円(27億円)



多面的機能の発揮

日本型直接支払による多面的機能の維持・発揮のための共同活動や中山間地域での農業生産活動継続への支援

多面的機能支払交付金

488億円(487億円)

中山間地域等直接支払交付金

265億円(261億円)

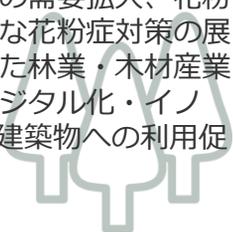


新たな花粉症対策の展開と森林・林業・木材産業によるグリーンな成長

花粉削減・グリーン成長総合対策

222億円(161億円)

スギ人工林の植え替え、川下の需要拡大、花粉の少ない苗木増産などの新たな花粉症対策の展開、国産材の安定供給に向けた林業・木材産業の生産基盤の強化、林業のデジタル化・イノベーションの推進、CLT等の建築物への利用促進



水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化

漁業経営安定対策の着実な実施

602億円(348億円)

計画的に資源管理等に取り組む漁業者を対象に漁獲変動等に伴う減収を補填する漁業収入安定対策（積立ぷらす）や、漁業経営セーフティネット構築事業等を実施



※「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策」に係る経費、「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費、「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費については、予算編成過程で検討します。

▶【農林水産省HP】
詳細はこちら



令和5年産一番茶の摘採面積、 生葉収穫量及び荒茶生産量（静岡県）

農林水産省大臣官房統計部では、令和5年8月16日に令和5年産一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）を公表しました。
ここでは、このうち静岡県の調査結果の概要及び最近の動きをお知らせします。

◆ 摘採面積

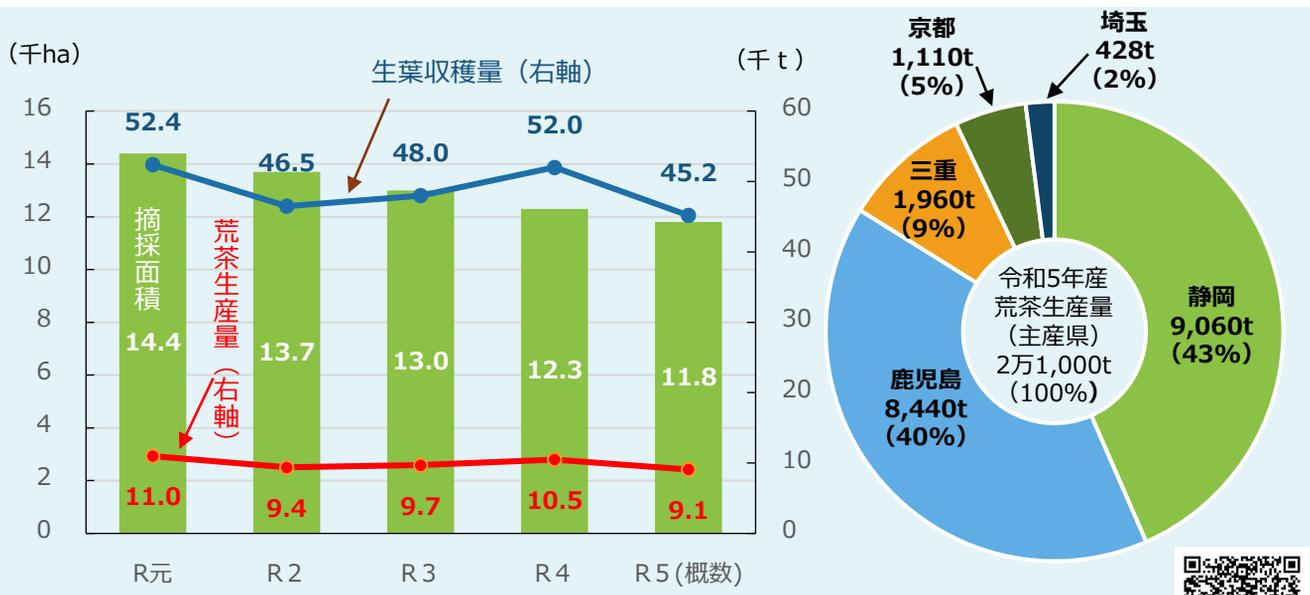
静岡県の摘採面積は1万1,800haで、前年産に比べて500ha（4%）減少しました。摘採面積は令和元年産に比べて2,600ha（18%）の減少となっています。

◆ 生葉収穫量及び荒茶生産量

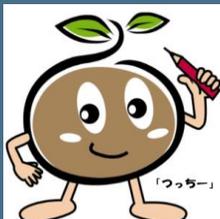
静岡県の生葉収穫量は4万5,200t、荒茶生産量は9,060tで、前年産に比べてそれぞれ6,800t（13%）、1,440t（14%）減少しました。



図 一番茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（静岡県）と主産県



▶【農林水産省HP】
詳細はこちら



農林水産省ホームページで、各種調査結果を公表しています。

分野別分類（農家数、作付面積、生産量、被害など）、
品目別分類（米、野菜、果樹、花き、畜産など）及び
調査名一覧（50音順）



お茶をめぐる課題と魅力



関東農政局
地方参事官（静岡）
秋山 憲孝

今日はお茶を飲みましたか？ どんなお茶だったでしょうか。急須で淹れたお茶、それともペットボトルのお茶だったでしょうか。「お茶を飲まなくなった」と言われていますが、緑茶（リーフ茶）は減少傾向で推移しているもののペットボトルを含めたお茶に対する支出は横ばいで、多くの消費者はお茶が嫌いになっただけではないことが分かります。

▼そのお茶の産地はどこでしょう

本紙面では一番茶の生産量について統計データを説明していますが、比較的新興の産地である鹿児島県は一番茶だけでも国内第2位の大産地となっています。でも、「鹿児島県のお茶は飲んだことがない」という方もいるのではないのでしょうか。実は気づかないだけで、多くのお茶は鹿児島県を含む複数産地の荒茶をブレンドすることで品質を整えられているため、原材料として明示的に「静岡県産」と記載されていない限り他県産の荒茶も使われていることがあります。ペットボトルのお茶の場合、〇〇県産とは表示されていないことが多く、全国各地の荒茶が使われています。余談ですが、ペット

ボトルに表示されている「製造所固有記号」を調べると、製造者は意外なメーカーのときがありますよ。

▼茶業の課題と鹿児島県の努力

鹿児島県産のお茶の多くは鹿児島ブランドで売られているわけではないという課題があり、所得向上のため様々な取組、平たく言うと「投資」を行っています。どの産業でもそうなのですが、伸びていくためには投資が必要で、投資をしないと生産性が落ちてしまいます。お茶の生産で投資と言うと、例えば改植です。老木になると生産性が低くなるため、一定期間で、できれば新しい品種に改植することが重要です。鹿児島県では、静岡県で一般的な「やぶきた」からの改植が進み、現在では作付面積の3割程度しか「やぶきた」が残っていません。また、現在伸びている輸出向けのお茶生産も進んでいます。海外では有機栽培のお茶の需要が高いのですが、有機JASを取得した茶園面積は静岡県の約3倍で、抹茶の原料となるてん茶の生産も盛んです。

▼増えるお茶カフェ

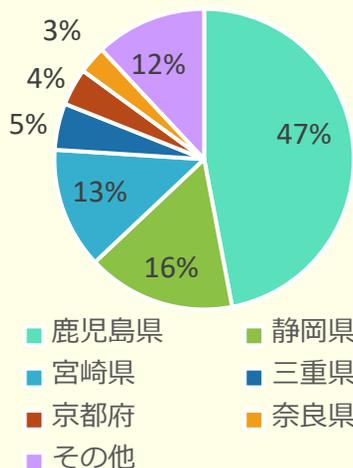
ところで、最近特に東京で「お茶カフェ」が増えています。家で楽しむだけでなく、外食のようにお金を払ってプロの淹れたお茶を飲むことができます。「お金を払ってお茶を飲む」という習慣が定着することはとても良いことだと思います。先日東京のお茶カフェに行き、

日本茶のアフタヌーンティーを頂きましたが、お茶も軽食も和スイーツもとても美味しかったです。平日でしたが席はいっぱいで、工夫次第で人を呼べるのがお茶の魅力だと感じました。ちなみに1杯目のお茶は、宮崎の釜炒り茶とスライスしたパイナップルを急須で淹れたもので、夏らしくとても爽やかでした。外でお茶を飲む体験もおすすめです。

▶産地別の品種構成（%）（R4年度）

	静岡	鹿児島
ゆたかみどり（早生）	0.04	26.5
さえみどり（早生）	0.6	14.1
さやまかおり（やや早生）	2.0	0
やぶきた（中生）	85.0	30.9
さえみどり（中生）	0.04	0
おくみどり（晩生）	0.7	4.8
その他	11.6	23.7
合計	100	100

▶県別有機JAS（ほ場の面積（茶畑）の割合）（R3年）



※グラフ・表は、農林水産省調べ



ちゃ
「茶っふる」：静岡市（茶町KINZABURO）

県内各産地の抹茶を練りこんだ濃厚なクリームを、ふんわりやわらかい生地で包んだ、どこか懐かしい味のワッフルです。

第81期の将棋名人戦では、藤井聡太竜王と渡辺明名人の両者とも「茶っふる」をおやつに選びました。

（写真：手前右から時計回りに「本山」「岡部」「川根」「天竜」）

読者アンケートのご協力、
 大変ありがとうございました。



関東農政局 静岡県拠点

〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

■お問合せ

地方参事官室	054-246-6121
経営所得安定対策等担当	054-200-5500
消費・安全チーム	054-246-6959
統計チーム（経営・構造）	054-246-0612
統計チーム（生産流通）	054-246-6123

■アクセス

JR静岡駅より
 徒歩：約25分（約1.8km）
 バス：JR静岡駅北口10番のりば
 県立総合病院方面「アイセル21」下車

